

地域資源を活用した中山間地域の 集落機能の持続性について

キーワード 地域資源, 地域づくり, 生業



■ 研究概要

日本の総土地面積の7割は中山間地域です。ここには日本の総農家の4割が居住していますし、農業産出額も4割を占めます。このように中山間地域は日本の農業において重要な位置にあります。そこには魅力的な地域資源が豊富にあります。山形県にもみられる美しい棚田、焼畑という農法、多様な在来作物などは、その地で数百年にわたり守り伝えられてきた地域資源です。ただ、これらの中には零細な規模のために担い手不足などの課題が絶えません。商業ベースにのりづらい小規模な地域資源はどのように維持され、活用を図ればいいのでしょうか。本研究室では現在の生業がどのような条件のもと継続しているのかを調べ、伝統的知を活かした地域資源の維持と活用の方策を探ります。

また、中山間地域では元来、集落の人々が互いに協力し、暮らしを維持する仕組みや方法を持っていました。しかし、ライフスタイルの変化や人口減少・少子高齢化によりその仕組みが十分に機能しなくなっている例もみられます。

そんな中、暮らしに関わる「困りごと」を、行政などの支援や「関係人口」との連携や交流、協働を通して、地域自ら解決に向けてチャレンジしたいという声が聞かれます。本研究室では他地域の「地域づくり例」を紹介しつつ、学生とともにワークショップを行うことで、当該地域の「困りごと」を整理し、どのような解決の道筋があるのか、住民とともに考える活動をしています。

研究例

【悩み】 耕作放棄の問題が浮上していた棚田

どうすれば美しい棚田を維持できるのか？
・原因は何か？（ワークショップ）

【方策1】 経済的インセンティブ（動機付け）

【方策2】 関係人口との協働による棚田維持

【方策3】 住民主体のモチベーション向上

【効果】 耕作放棄率の減少！
のみならず住民間の交流量の増加

■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 中山間地域の地域づくり
- ・ 伝統的な生業の存立基盤に関する研究
- ・ GIS（地理情報システム）を用いた地域課題の可視化

渡辺 理絵 准教授 WATANABE, Rie

専門分野：食農環境地理学

E-mail : rie-wa@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

